土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　一級河川　江の川水系　下領家右下谷測量設計地質調査業務委託（通常砂防・公共）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 掘削・掘削のり面

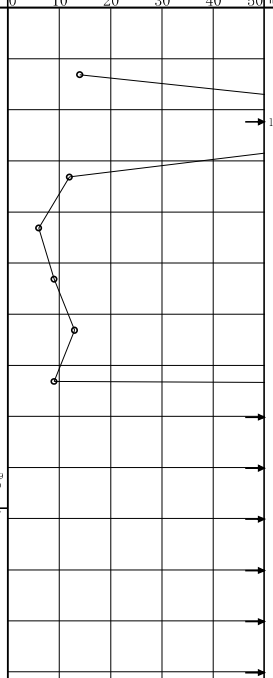
ボーリング名	B-1-1	**調査位置**	広島県庄原市総領町下領家地内			**北緯**	34° 47′ 5.9224″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			**調査期間**	2019年 12月 2日 ～ 2019年 12月 4日	**東経**	133° 04′ 13.9787″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 278.82m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 10°
総削孔長	13.00m					**使用機種**	

試錐機	YBM　YBM-05D				
エンジン	ヤンマー　NFD-7	**ポンプ**	安田工業　TAP-120		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
1	277.37	1.45		礫混じりシルト質砂		暗褐	rd3		新生代第四紀	表土または旧耕作土に相当。 礫分はφ30mm程度以下である。 砂は細砂からなる。 試料の含水は低い。
2 3 4 5 6 7	271.22	7.60		玉石混じり砂礫		淡褐～青灰	緩い～中らいのぐい		新生代第四紀	崖錐堆積物に相当。 試料のほぼ全量が礫分から構成される。 玉石分はコア長5～10cmで採取される。 玉石分以外の礫分は，φ40mm程度以下であることが多い。 いずれの礫分も硬質である。 マトリクスは粘土質の砂からなり，砂分の粒径はやや細粒に偏る。 貫入試料も，ほぼ全量が礫分からなる。 全試料が滞水しており，掘削水が浸透している可能性がある。
8 9	269.22	9.60		風化安山岩		黄灰			中生代白亜紀	割れ目に富み，弱い風化色を伴った岩盤である。コアは岩片状～ごく短柱状を呈す。岩片は中硬質である。割れ目に沿った砕片化と土砂化が顕著である。少なくとも8.2mまでは流入土砂を伴う。 【CL級岩盤に相当する】
10 11 12 13	265.82	13.00		安山岩		淡青灰			中生代白亜紀	やや割れ目に富むが，概ね新鮮な岩盤である。 コアはクサビ形状の短柱状を主体とする。 岩片は硬質である。 割れ目は鋭い形状を示す新鮮なものが多い。 ただし，所々に砂～細礫状に粉砕したものを認める。 【CM級岩盤に相当する】 検尺深度は12.00mである。

孔内水位／測定月日：12/09 9.80

標準貫入試験



N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
14	1.15	5	5	4	14/300		
	1.45						
100	2.15	32	18/50		50/150	150	
	2.30						
12	3.15	3	5	4	12/300		
	3.45						
6	4.15	2	2	2	6/300		
	4.45						
9	5.15	3	2	4	9/300		
	5.45						
13	6.15	4	5	4	13/300		
	6.45						
9	7.15	2	3	4	9/300		
	7.45						
	8.00	貫入不能			50/0		
	8.00						
	9.00	貫入不能			50/0		
	9.00						
	10.00	貫入不能			50/0		
	10.00						
	11.00	貫入不能			50/0		
	11.00						
	12.00	貫入不能			50/0		
	12.00						
	13.00	貫入不能			50/0		
	13.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					12/2
					12/3
					12/4